

【生薬名】防己 *SINOMENI CAULIS ET RHIZOMA*

【起源植物】オオツヅラフジ *Sinomenium acutum*



【科名】ツヅラフジ科Menispermaceae

【別名】大葛籠藤(オオツヅラフジ)、漢防己、粉防己、防己一名解離(神農本草経)

【薬用部分】茎、根茎

【主成分】アルカロイド(シノメニン)

【薬性】気味は苦辛寒、帰経は膀胱肺に属す

【効能】●利水滲湿・止痛

●神経痛、リウマチ、関節炎、浮腫、5～10gを煎服

●服用中に体が痒くなることが有るが効いている証拠である

(痒みが出なければ効果があらわれていないという人もいます)

●利尿作用は顕著で尿量を47%増加するという報告もある

【注意】●類似のウマノスズクサ科の植物アオツヅラフジ(木防己)と絶対に間違  
って使わないこと

●アオツヅラフジはその主成分にアストロキア酸を含み腎不全を起こす  
事が科学的に証明されました。殆どの市販の薬草の本には木防己は  
防己と同様に使うとあるので特に注意して下さい。日本の薬局では木  
防己は販売されていませんので、自分で取ってきて飲まないように。

●防己は断面が暗褐色～灰褐色、木防己は灰白色で区別できる

【出典】●治風寒温瘧熱氣。諸癩。除邪。利大小便。(神農本草経中品)

●防己 気寒、風湿、脚痛、熱積膀胱、消癰、散腫。(薬性歌)

【備考】●防己は日本産と中国産とでは植物が異なっています。

●防己は膀胱経に入り、利水・祛風の要薬。利水、滲湿、祛風、  
止痛の効があり、湿熱が壅塞して通らない小承気湯の脚気、水  
腫、関節の疼痛などの省に応用され、神経痛、リウマチの腫脹、  
疼痛を軽減することが証明されている。

【処方例】●防己黄耆湯、防己茯苓湯、己椒藶黄丸